

整理番号 2024M-010
補助事業名 2024年度 子どものアバター活用拡大に向けた先生支援強化
(最終年度総括) 補助事業
補助事業者名 一般財団法人ニューメディア開発協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

より多くの子どもが最新のICT機器の使い方やアバターでの学校生活参加手段を知ることによって学校生活に参加できるようになり、また、学校の先生も自主的にアバター関連情報を入手し多くの子どもを支援できるよう、かなめとなる先生支援に重点を置き先生の自主独立での子どものアバター利用拡大を目指す。

(2) 実施内容

① アドバイザリーボード

専門家によるアドバイザリーボードの指導・助言のもと、全体事業を推進。

アドバイザリーボードメンバー			
番号	氏名	所属	役職
1	リーダー 滝川 国芳	京都女子大学 発達教育学部教育学科	教授
2	藤井 慶博	秋田大学 大学院教育学研究科	教授
3	永井 祐也	岐阜聖徳学園大学 教育学部	専任講師
4	森川 夏乃	愛知県立大学 教育福祉学部 社会福祉学科	准教授
5	クリス・クリストファーズ	iPresence株式会社	代表取締役社長

(参考) 《遠隔教育の分類》 A～C (10分類)

A

多様な人々とのつながりを実現する遠隔教育

他の学校とつないで合同で授業を行うことで、協働して学習に取り組んだり、多様な意見や考えに触れたりする機会の充実を図ります。

A1 遠隔交流学習

離れた学校とつなぎ児童生徒同士が交流し、互いの特徴や共通点、相違点などを知り合う。



A2 遠隔合同授業

他校の教室とつないで、継続的に合同で授業を行うことで、多様な意見にふれたり、コミュニケーション力を培ったりする機会を創出する。



B

教科等の学びを深める遠隔教育

遠方にいる講師が参加して授業を支援することで、自校だけでは実施しにくい専門性の高い教育を行います。

B1 ALTとつないだ遠隔学習

他校等にいるALTとつないで、児童生徒がネイティブな発音に触れたり、外国語で会話したりする機会を増やす。



B2 専門家とつないだ遠隔学習

博物館や大学、企業等の外部人材とつなぎ、専門的な知識に触れ、学習活動の幅を広げる。



B3 免許外教科担任^{※1}を支援する遠隔授業

免許外教科担任や臨時免許を有する教員が指導する学級と、当該教科の免許状を有する教員やその学級をつなぎ、より専門的な指導を行う。



※1 とりうる手段を尽くしてもある教科の免許状を保有する中学校、高等学校等の教員が採用できない場合の例外として、1年以内の期間を限り、都道府県教育委員会の許可により、当該教科の免許状を有しない教員が当該教科の教授を担任するものを免許外教科担任制度といいます。

B4 教科・科目充実型の遠隔授業^{※2}

高等学校段階において、学外にいる教員とつなくことで、校内に該当免許を有する教員がいなくても、多様な教科・科目を履修できるようにする。



※2 高等学校の全日制・定時制課程、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部においては、遠隔教育によって履修した授業について、一定の要件を満たす場合、受領側に当該校の教員がいれば、当該教科の免許状の有無は問わず、単位認定することができます。

C

個々の児童生徒の状況に応じた遠隔教育

特別な配慮を必要とする児童生徒や、特別な才能をもつ児童生徒に対して、遠方にいる教員等が支援することで、それぞれの状況に合わせたきめ細かい支援を行います。また、一人一人の児童生徒がそれぞれ教員等とつながることで、それぞれの興味関心に寄り添った指導を行います。

C1 日本語指導が必要な児童生徒を支援する遠隔教育

外国にルーツをもつ児童生徒等と日本語指導教室等をつなぎ、日本語指導の時間をより多く確保する。



C2 児童生徒の個々の理解状況に応じて支援する遠隔教育

個々の児童生徒と学習支援員等を個別につなぎ、児童生徒の理解状況に応じて、学習のサポートを行う。



C3 不登校の児童生徒を支援する遠隔教育

自宅や教育支援センター等と教室をつないで、不登校の児童生徒が学習に参加する機会を増やす。



C4 病気療養中の児童生徒を支援する遠隔教育

病室や院内分教室等と教室をつないで、合同で授業を行うことで、孤独感や不安を軽減する。



(参考) 約100件の「特別支援学校でのアバターロボット活用子ども支援実践事例ビデオ」
 サイト掲載 (抜粋) <https://avatar-tele-edu.com/example-list/>

利用事例 / 各校の取り組み

実際にテレロボを活用いただいている学校・機関での活用事例を紹介しています。



2025.03.27
 生徒が自走式アバターで大学生への学校紹介にチャレンジ～自分たちが誇りに思えた学校を知ってもらおう～

【協賛校】 岐阜県立高良特別支援学校
 <事例103、特別支援学校、高校生、視覚障害、リクレーション、学校紹介>



2025.03.27
 ーアバターを使った地元商店街との交流ー
 カレンダーのリモート配布「スイッチ操作でkubiのおしぎ」にチャレンジ!

【協賛校】 東京都立多摩川の公民館
 <事例102、特別支援学校、高校生、肢体不自由、知的障がい、リクレーション、地域交流>



2025.03.27
 僕の分身！Temi～人工呼吸器をつけた生徒が移動式アバターロボットで校内を探検無題～

【協賛校】 岐阜県立高良特別支援学校
 <事例101、特別支援学校、中学生、視覚障害、リクレーション、校内探検>



2025.03.27
 リアルに再現された学校のサイバー空間(デジタルツイン)でクイズ大会～アバターを操作しての自由な移動で参加意欲をアップ～

【協賛校】 岐阜県立高良特別支援学校
 <事例100、特別支援学校、小学生、中学生、視覚障害、リクレーション、クイズ大会、デジタルツイン>



2025.03.27
 病院内学級からアバター参加～離れたクラスに所属感のある毎日を求めて～

【協賛校】 大分大学医学部付属病院 病院内学級「ひびかい」
 <事例69、病院内学級、中学生、視覚障害、授業、授業参加>



2025.03.27
 病室からアバターでクラス合唱に参加！～一緒に歌いました～

【協賛校】 大分大学医学部付属病院 病院内学級「ひびかい」
 <事例68、病院内学級、中学生、視覚障害、学校行事、文化祭、合唱コンクール>



2025.03.27
 アバター操作しながらの感覚が苦手な児童も少しの工夫で楽しく作品制作！～全国障がい者総合文化祭作品展見学～

【協賛校】 岐阜県立高良特別支援学校
 <事例67、特別支援学校、小学生、知的障がい、学校行事、文化祭、作品展、作品展見学>



2025.03.27
 可動型アバターロボットを使って事前学習～校外学習先のことをたくさん知ろう～

【協賛校】 岐阜県立高良特別支援学校
 <事例66、特別支援学校、小学生、高校生、知的障がい、学校行事、校外学習、事前学習>



2025.03.27
 アバターで届けよう この歌を!

【協賛校】 大分大学医学部付属病院 病院内学級「さざんか」
 <事例65、病院内学級、小学生、視覚障害、授業、授業参加>



2025.03.27
 ずっとみんなに会いたかった...ぼくたちは、元気だよ!

【協賛校】 大分大学医学部付属病院 病院内学級「さざんか」
 <事例64、病院内学級、小学生、視覚障害、学校行事、文化祭>



2025.03.27
 オンラインでつながるだけじゃない！触れてびっくり！特別支援学校と地域の中学校がアバターで学校間交流

【協賛校】 東京都立多摩川の公民館
 <事例63、特別支援学校、中学生、肢体不自由、リクレーション、学校交流、地域>



2025.03.27
 アバターで本校⇄分教室をつないで交流！病院からフラダンスワークショップに参加

【協賛校】 東京都立多摩川の公民館
 <事例62、特別支援学校、中学生、肢体不自由、リクレーション、交流、本校、分教室>

イ 先生の「交流」機会拡大、普及促進、啓蒙活動

一般社団法人日本育療学会、全国特別支援学校病弱教育校長会、教育委員会、関連機関、及び特別支援学校現場と連携しながら、アバターロボット、メタバース等、ICT活用での「地域発信イベント」、「メタバース活用」等を通して、先生間をはじめ、様々な関係者との交流機会拡大、それを通じた促進普及促進・啓蒙を実施した。

(ア)【地域発信イベント ～秋田～】

秋田の魅力、地域の中核である「秋田大学」を中心に、秋田の魅力（竿燈まつり、動物園、水族館、かまくら祭り 等）を全国に発信。

アドバイザーボードメンバー秋田大学藤井教授、先生を目指している秋田大学学生がメインに運営を担当し、今後も継続的にICTを活用した地域魅力発信・交流を行うための体制を構築した。

秋田竿燈まつりの例を示す。

- 日時：2024年8月4日（日）、8月5日（月）19:00～20:35
- 場所：秋田市 竿燈大通り
- 参加者：秋田県内、全国の特別支援学校、施設子ども等
遠隔操作者：21名、視聴参加者：約120名（8/4約65名、8/5約55名）



地元有力紙 秋田魁新報への
記事掲載(8/6朝刊)



遠隔ロボット操作の子どもへの
まつり配信と秋田大学生との交流

(イ)【地域発信イベント ～札幌～】

<1> さっぽろ雪まつり 配信、交流

秋田に続く「継続的な地方発信体制構築」に向け、札幌の魅力を北海道手稲養護学校三角山分校（札幌）の先生と全面連携し、一般社団法人札幌観光協会の支援のもと、雪まつり会場に行けない子どもたちがアバターロボットを使って人気の雪像を見学し、その様子を全国にライブ配信した。

●日時：2025年2月10日（月）10:00～14:30

●場所：札幌市 大通り公園

●参加者：北海道手稲養護学校三角山分校児童生徒、全国の特別支援学校、施設の子ども等

遠隔操作者：15名、視聴参加者：約200名

北海道手稲養護学校三角山分校児童生徒、全国の特別支援学校、施設の子ども達が多隔（自宅、学校、施設等から）アバターロボットを操作し会場を見学。同時に操作者から見えている会場の様子を配信。



青空の下での大雪像ライブ中継開始

(ウ) メタバース活用

これまで作成したメタバース空間の様々な有効活用による先生間交流を实践
肢体不自由者サポート機器・教材紹介&交流会の例を示す。

【特別支援学校先生の自慢の肢体不自由者サポート機器・教材紹介&交流会】

特別支援学校先生の自慢の肢体不自由者サポート機器・教材紹介&交流会
各校で活用している肢体不自由のサポート機器、教材等を紹介したメタバース
空間にて、展示している特別支援学校先生方によるメタバース内での展示物紹介、
交流会を実施。

●日時：2024年12月18日（水）10:30～12:00

●交流、視聴、メタバース体験参加者：全国の特別支援学校先生、病院、施設
を中心に約100名



2 予想される事業実施効果

①アドバイザーボード

・得られた成果を、アドバイザーボード各メンバーの各専門領域にて展開し、幅広く理解者、子ども支援実践者を拡大することにより、より多くの「子どもの笑顔」の実現が期待できる

・国、行政、教育委員会等の関係部署へのアピールにより、制度、金銭面でのサポートを推進する事により、現場、サポート者を含めた導入促進が期待できる

②新たなアバター利用促進につながる先生の「交流」機会拡大、普及促進、啓蒙活動

アバターロボット活用子ども支援実践事例ビデオの、「遠隔教育の分類」に準拠しての分類・整理に関しては、新たにアバターロボットを活用しようとする先生や関係者にとって、ダイレクトに求める事例にアクセスでき、その事例では「事例実施に当たって、工夫したこと、乗り越えたこと」を中心に紹介されており、スムーズな適用が行われ、支援する子どもの拡大が期待できる。

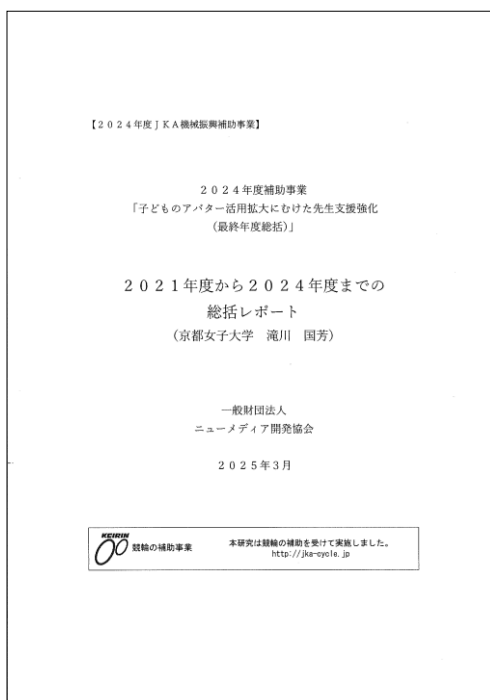
また様々なイベント等の取り組みを通して、子どもが「コミュニケーションに対するハードルが下がる」という経験が、本人の自信に繋がり、「次の事を行ってみよう」という気持ちになっており、総合的に、ソーシャルスキル向上が期待できると共に、取り巻く先生間の更なる交流活性化も期待できる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

ア 「子どものアバター活用拡大にむけた先生支援強化(最終年度総括)」2021年度から2024年度までの総括レポート

<https://www2.nmda.or.jp/archives/2394/>



目次

1. 公益財団法人 KA 補助事業 一覧 (一財) ニューメディア開発協会	1
2. 補助事業への取り組みの背景	1
2.1 病気を患える子ども等の学校教育におけるニーズと現状	1
2.2 日本の病気を患える子ども等への教育支援の歴史	2
2.3 病気を患える子ども等が抱える課題	3
2.4 病気を患える子どもへの「教育の情報化」に関する施策	5
2.4.1 619A スクール構想と新型コロナウイルス感染症に伴う遠隔教育の拡大	6
2.5 不登校児童生徒への学習機会確保のための ICT 活用	7
2.6 特定の分野に特異な才能のある児童生徒の教育支援の充実のための ICT 活用について	9
2.7 文献	10
3. 2021年度 KA 補助事業	12
「子供の発達不安軽減、病院内学校と特種校先生の連携アバター利用補助事業」	12
3.1 取組の概要	12
3.2 研究委員会のメンバー構成	15
3.3 2021年度補助事業から明らかとなったこと	16
4. 2022年度 KA 補助事業	16
「アバターロボット活用での先生への支援を拡大し病弱の子どもの学校生活参加機会を増やす取組みに関する補助事業」	16
4.1 取組の概要	16
4.2 アドバイザリーボードのメンバー構成	18
4.3 2022年度補助事業から明らかとなったこと	19
5. 2023年度 KA 補助事業	19

「アバターでの学校生活参加利用者拡大とメタバースによる構面拡大 ～5年計画事業4年目での達成～補助事業」	19
5.1 取組の概要	19
5.2 アドバイザリーボードのメンバー構成	22
5.3 2023年度補助事業から明らかとなったこと	22
6. 2024年度 KA 補助事業	23
「子どものアバター活用拡大に向けた先生支援強化(最終年度総括) 補助事業」	23
6.1 取組の概要	23
6.3 2024年度補助事業から明らかとなったこと	25
7. 最後に	25

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの
なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般財団法人ニューメディア開発協会
(イッパンザイダンホウジンニューメディアカイハツキョウカイ)
住 所： 〒103-0024
東京都中央区日本橋小舟町3番2号 リブラビル
代 表 者： 理事長 永松 莊一 (ナガマツ ソウイチ)
担 当 部 署： 総務グループ (ソウムグループ)
担 当 者 名： 総務グループ長 高橋 省三 (タカハシ ショウゾウ)
電 話 番 号： 03-3869-5030
F A X： 03-3869-5029
E - m a i l： s.takahashi@nmda.or.jp
U R L： <http://www2.nmda.or.jp/>